

平成 22 年総会参加レポート

平成 22 年 5 月 26 日

朝日産業株式会社 廣岡 雄三

今回は、研修会のなかで特に参考になるなと思った話についてレポートします。

研修会では、毎度お馴染みの勇和建设株式会社 斉藤保雄さんの全面断熱改修+耐震補強の話です。弊社では、なかなかこの手の仕事をする機会はありませんが、いつか弊社が手掛ける時があるかもしれないと思い、資料を見ながら話を聞かせてもらいました。

話の中で特に参考になったのが、付加断熱施工の際の胴縁を縦にするか横にするかという話です。やはり胴縁を既存の柱・間柱に留めるには、壁の上下部分の柱・間柱が見えていても、間柱の位置が微妙にずれていたり、最近の新築では使われないような細い間柱（30mm 未満の場合もあるらしい）が使われていたり、胴縁を留める釘が間柱からずれてしまう事が度々あるそうですが、横胴縁であれば、釘が間柱からずれても打ち直しが容易にできるという事でした。こういった内容は、実際に施工をしてみないとわからない事なので、とても勉強になりました。

次に気になったのが、相当隙間面積（C 値）の目標数値と測定数値についてです。断熱改修工事という性質上、断熱性能と気密性能に関しては目標値を設定して施工を行うケースがほとんどだと思います。断熱性能に関しては、QPEX で計算を行った断熱仕様通りに施工すれば、目標数値はクリアできると思いますが、気密性能に関しては、通常は施工完了後に気密測定を行って測定結果が出ます。ここで目標値を下回るわけにはいきませんし、目標値を低く設定するのも、自社の施工能力が低いと自ら言っているようなものです。前置きが長くなってしまいましたが、今回の物件に関して気密性能の目標値が 2.0 (cm/m²)、測定値が 1.98 (cm/m²) という事で、ぎりぎりでのクリアとなっています。圧縮グラスウールによる気流止めを壁の上下で行い、天井は防湿シート 0.2mm を施工、外壁はモルタル壁を防湿気密層に利用したとの事なので、外壁には防湿シート 0.2mm は施工されていないと思います。私の予想では、測定値が 1.5 (cm/m²) を上回ってくる位かと思っていたので、少し驚きました。こういった内容も、やはり実際に施工してみて初めてわかる事だと思うので、話を聞いて良かったと思いました。

こういった全面断熱改修工事の気密性能の確認には、仕上げ工事前の気密工事が完了した段階で、気密測定を一度行っておいた方が良いという話を以前に聞いたことがありますが、今回のように防湿シートを新設しない所（今回の物件では、外壁部分）があるような場合には、工事の最後に気密測定を行って、測定値が目標値を下回ってビックリという事のないように、仕上げ工事前の気密工事が完了した段階で気密測定を一度行っておいた方が、施工側としても施主側としても安心して工事が進められるのではないかなと思いました。